

国重文 村上家

五箇山にある村上家住宅は、この地域で最も古い合掌造り（急勾配な茅葺き屋根の家屋）のひとつです。17世紀後半に建てられた、保存状態の良いこの家屋は、今では重要文化財に指定されており、この地域独特の合掌造り建築の代表例となっています。村上家住宅は4層構造となっており、上層階は五箇山の主要産業のひとつである絹の生産専用となっていました。現在は、養蚕や和紙づくりに使われたさまざまな道具類が、2階と3階に展示されています。来訪者は、この家屋の3階まで見て回ることができ、ここの住民に会うこともできます。ここに暮らす家族は、伝統的な囲炉裏を囲んでの興味深い話や民俗音楽の演奏、さらには「ささら」といった伝統楽器の演奏を伴う踊りが大好きです。また、贈り物やお土産を購入することもできます。